

## T-20番 平原沙奈 要約

(平成27年3月現在)

### 1 被害者

平成9年8月生。接種時中学2年生（14歳）、現在17歳。埼玉県在住。

### 2 ワクチン接種前の健康状態等

分娩時脳性麻痺のため車椅子の生活で右手が不自由だが、小中学校の普通学級に通学し、欠席は殆どなく、勉強が好きで、高校も普通校を受験する予定だった。小学5年から接種時まで1年に1回程度のとんかんの発作はあったが、数分で回復していた。普段は健康。

### 3 接種

サーバリックス3回（平成23年8月23日、同11月8日、平成24年4月6日）

### 4 経過概要

平成23年11月 2回目接種から起床時頭痛を度々訴える。

平成24年4月27日 3回目接種後21日目、てんかん様の大発作が19分も続き、救急搬送。

5月以降 手足に自由が利かない、ぴくぴくする、不随意運動、めまい、

6月27日 発作（これまでの発作と違い、手が動かず、声も出せない）

8月以降 手の関節、膝上が痛み、整形外科、神経科等受診するも原因不明。

9月以降 脚が痛くて車いすに座るのも苦痛、手が痛くて字が書けない、受験勉強もできず、進路を特別支援学校に変更。

平成25年3月 この前まで3ヵ月ほど手足の痛みがなくなっていたが、再発。だんだん悪化。4月には激痛に変わる。

5月 朝の激痛が最高に。痛み止め座薬は効かず泣き叫ぶ。テレビ報道を見て、ワクチンの影響疑う。

9月 信州大の池田医師の診察を受け、ワクチンが原因と言われる。

11月 カイロプラクティックに通うたび段階的に痛みが減少。

平成26年5月 目の痛み・涙と視力障害。不随意運動（頭や手が30分～2時間）、足の裏や足首の疼痛が再発。

7月以降 疼痛悪化。8月～便秘、9月～幻覚、10月発作、疼痛激化。

### 5 これまでに発症した主な症状

関節痛、筋肉痛、てんかん様発作、不随意運動、目眩、記憶力低下、生理不順、にきび様の発疹、あざ、耳鳴り、痒み、筋膜炎、視力障害、便秘、幻覚、倦怠感

### 6 受診医療機関

13医療機関

### 7 現在の生活状況

カイロプラクティックにより一時疼痛は減少したものの、また、痛みが復活。目の痛み・視力障害が発現、不随意運動も再発しているが、特別支援学校高等部に通学している。

平成26年10月発作以降、疼痛激化し、学校の早退欠席続く。平成27年3月入院。

### 8 救済制度の申請 申請していない。

1 はじめに

(1) 私の生まれ育った経緯

私は、1997年8月生まれの現在高校2年生で、双子の姉妹の妹です。母の前置胎盤の大出血で8か月1416gと小さく生まれ、分娩時低酸素状態に置かれたため、脳性麻痺が残り、身体障害者等級1級（脳性麻痺による四肢体幹機能障害）の手帳の交付を受けました。

しかし、両親が訓練士の資格を取って、米国フィラデルフィアのドーマン研究所からの指導を受けて、私に対し、24時間、脳の機能を回復させる訓練を施してくれました。その結果、私は地元の公立の小学校に入学するまでに、話したり、左手で字も書いたりできるようになり、足が不自由なので車椅子であることと、右手が不自由なだけで、あとは通常学級で皆と同じ生活を送ることができていました。

私の両親は、このようにとても努力して医師も驚くほどに訓練し、また教育長や市に働きかけて、障害児を取り巻く環境も地域を巻き込んで変えていきながら、私を育ててくれました。

また、双子の姉はいつも私と一緒にいて、小学校・中学校へも一緒に行き、危険がないか親代わりのように見張って、私と一緒に大きくなりました。

家にはボランティアの方がいつも来てくれて、その数は延べ60人ほどになりました。私は新座市の人々みんなに育ててもらったようなものだと、母は言っています。

(2) 勉強に励んだ学校生活

小学校5年生のとき、学校給食で、玉こんにゃくを誤飲し、喉に詰まって一時窒息状態となり、救急搬送されました。その1週間後、はじめててんかん発作を起こし、以後小学校5年生から中学3年まで、合計7回てんかん発作が起きました。中学1年の時から、てんかんの薬を服用するようになりました。

てんかん以外には、大きな病気はなく、健康に育ちました。勉強の面では、人よりも書くのが遅いということがあって、宿題やテストには人より時間がかかりましたが、課題は遅くなくても必ずやりきって提出し、学校は休まず、勉強を頑張っていました。

中学校のあとは、車椅子の生徒の入学に実績や理解ある県立の普通高校を受験するだろうと、母も私も思っていました。

小学校のとき、校長が「この子の車椅子に触っちゃダメ」と級友に言ったことから、小中学校の友達が学校で、私に距離を置くような傾向があって、私は、「せめて勉強を頑張る。そして、高校に行ったら友達を作りたい。高校に行ったら、人生を変えるんだ。」と決意し、家族にもそう言っていました。

だから、私がワクチン接種のあと、手足の激痛で高校へ行けなくなったのは、学校に行きたくないからなんかではありません。本当に、友達と会いたくて、学校に行くと勉強したくて、頑張っていました。学校が大好きだったのです。

2 子宮頸がんワクチン接種に至る経緯

(1) 市からの通知

中学校2年の時、市からピンク色のお手紙で子宮頸がんワクチンの接種の案内が来て、高校1年生までに3回接種をしなくてはならないと思いました。私たちは双子なので、助成がある3月までに打てば無料、4月からは2人で10万円となるので、親にとっては大きな違いでした。また、このワクチンの案内が来た時、祖母が、私の車椅子の友達が幼い頃にお母さんを亡くした原因が子宮頸がんだったと話していたこともあって「このワクチンを打てば子宮頸がんにならないのだから、受けなくちゃ。」と思ったのです。

私と双子の姉、それに車椅子の友達は、3人で一緒に、新座病院で3回ともサーバリックスの接種を受けました。

最初は、中学2年の平成23年8月23日、2回目は同じ年の11月8日、3回目は中学3年の平成24年4月6日でした。

## (2) 接種の際の説明はなかった

ワクチンを打つ際、医師や看護師の口からは、ワクチンについての説明は特にありませんでした。母が、説明文書をももらったようですが、接種後、何も知らないうちに処分してしまいました。

注射を受ける前に唯一医師から言われたのは、注射を打つ腕を「(左右) どちらにする？」ということだけでした。

## 3 ワクチン接種後の痛み

このワクチンは、他の今まで受けたワクチンよりは痛くて、痛みが3、4日続きました。また、打ったところにしこりができていました。このように思ったのは3回目の接種のときだったと思います。1、2回目は特に変わったことはなかったと思います。

## 4 2回目接種後の頭痛 ～ 異常と思われる出来事の始まり

今思えば、2回目のワクチン接種のあと、朝起きるときに頭痛がするようになっていました。あれが異常の始まりだったと思います。

平成24年1月、頭痛薬を処方してもらいましたが、我慢できるくらいなので、あまり薬は飲まないようにしていました。

## 5 3回目接種21日後の大発作 ～ 双子の姉と同日の異常

最も印象的なワクチン接種後の異常な出来事は、3回目の接種後の大発作でした。

GWに入る平成24年4月27日、姉の侑奈が39度を超す高熱を出しました。母が姉に水枕をするなどしていた際、ふと振り返って私を見ると、私が意識を失い固まって、てんかん発作のような状態になっていたのだそうです。いつものてんかんなら数分で治まるのに、このときは19分も続き、座薬を入れても効かず、救急車で多摩北部医療センターに運ばれ、点滴を受けて夜中に帰宅しました。

発作のあと数日、わたしは「ぐるぐるする。なんだか変だよ」と言っていました。当時めまいというものを知らなかったの、そう言っていたと思います。

また、発作のあと4日後くらいに、手足の自由が利かないように感じ、また手が勝手にびくびくし始めました。また、私の意思と関係がなく右足が勝手に上がる、という現象が起きました。

てんかんのかかりつけ医である国立精神・神経医療研究センター小児神経科に、5月22日にかかった際は、医師から「原因が分からないので、てんかんではないか。」と言わ

れ、以前から飲んでいたてんかん薬テグレトールの増量が指示されました。

6月27日（3回目の接種から82日後）、また30分と、経験したことのない長い発作が起きました。右手が硬くなり、私は声も出せないでいたようです。

これまでのてんかんでは、意識はあり話はできていたし、硬直性の痙攣だったので、これはなんだろう、おかしいなと思うようになりました。

## 6 筋肉痛・関節痛の発生と病院のたらい回し

3回目接種から4か月後の8月、手の関節が痛くなり、その2日後、両足の膝の上が痛み出しました。この時は中3の夏休みで、私は長時間勉強をしていたので、母が勉強を禁止し、ゆっくり過ごし手をあまり使わないようにしましたが、効果はなく、手足の痛みは少しずつ悪化していきました。

心身障害児総合医療センターの整形外科を受診しても、原因不明とされ、処方された薬は効きませんでした。

その後、夏休み中、家では足を台に乗せて上げていないと、痛みがひどくていられないようになりました。

9月に入り、痛みで車椅子にも座っていられなくなったので、2学期からは学校でも授業中、足を椅子の上に上げて授業を受けるようになりました。

9月14日、朝霞台中央総合病院の整形外科を受診しましたが、整形外科で考えられる原因はないとのことで、「てんかん服用している薬の副作用ではないか」と言われました。

そこで整形外科のアドバイス通り、翌日てんかんの国立精神・神経センターに行きましたが、薬の副作用ではないから様子を見るようにと言われて、それだけで帰されました。

## 7 特別支援学校高等部への進路変更

私は、中学のとき、できれば普通高校を受験して入学したいと思ってはいましたが、中3初めからの不調で受験勉強どころか通常の勉強もできなかったし、この中3の夏休みは、受験勉強どころか、提出物も完璧にはできませんでした。こんなことは初めてでした。小学校入学からこの夏休み前までは、提出物は完璧で、人より提出が遅れることはあっても必ずやりきっていました。

でも、9月に入り、痛みの続く自分の体に自信が持てなくなり、高校は普通高校をあきらめて特別支援学校に行こうかなと考えるようになりました。母に、「これからは自分の体、生活というものに重点を置いた方がいいんじゃないかな。」と言いました。そして、私は、受験を考えていた県立高校から、現在通う特別支援学校へ、進路を変更しました。

## 8 手足の筋肉痛・関節痛の変化

### (1) 筋肉痛・関節痛の悪化で学校を休む

9月25日、とうとう手足痛が我慢できず、学校を早退し、翌日、朝霞台中央総合病院の整形外科を受診し、先日神経センターではてんかん薬の副作用ではないと言われたことを話しました。整形外科でも分からないとのことで、湿布や筋緊張緩和剤を処方してもらいました。しかし薬の効果はありませんでした。

手足の痛みがひどくなり、10月に入って学校の欠席や早退が続きました。

整形外科の先生は、やはりてんかん薬の副作用ではないかと神経センター受診を勧め

ました。

行くところがなくなって、母は困って多摩北部医療センターに私を診てもらえないかと聞きましたが、「国立精神・神経医療研究センターで診てもらっているなら、こちらで処方することはできない」と言われました。それで、やむなく神経センターを受診して、主治医の先生がいらっしやらなかったのも、母が別の医師に事情を話して、今の薬を止めてもらうようお願いしました。

(2) 一時、筋肉痛・関節痛が和らぐ

なぜか、平成24年10月下旬頃、痛みが和らいできて、それから3か月ほど、痛みがない生活が続きました。

11月頃、生理不順に気付きました。小学6年から月に1度きちんと来ていた生理が、2、3か月に1度になってしまっていたのです。

(3) 痛み再発、激痛と闘う日々

平成25年3月20日頃から、また手足の関節痛、筋肉痛が始まりました。4月に、特別支援学校高等部へ入学しましたが、痛みはだんだんひどくなっていき、我慢して通学する日々でした。高校に行ったら私は変わりたい、と思っていたので、生徒会書記に立候補しました。立候補するとき、手を挙げるのがひどく痛かったけれど、我慢して手を挙げました。

痛み止めを飲んでも何も変わらず、激痛に苦しんでいました。朝は特に痛くて、泣き叫んだり、「うー」とうめき声を上げて泣いたりしていました。

4月18日、激痛に耐えかねて学校を休み、国立精神・神経センターを受診しました。病院に行く前に、母が医師に電話をすると、てんかんの薬を止めても痛みが治らないので「ほらやっぱり、てんかんの薬のせいじゃなかったでしょう!」と言われたそうです。

医師は、薬をプラスする一方で新しい薬の中止には反対しましたが、かといって、母が「どうしたら良いですか」と聞いても「わからない」。「どこの科にかかったら良いですか」、と聞いても「分からない」との答えで、「先生のお子さんがこうだったらどうしますか」と聞くと「そんなこと分からない」と言われるので、母は「薬のせいじゃないかもしれませんが、とにかく試させてください」と、頼んで、親なりの判断で痛みの原因を追及するため、マイスタンという薬を徐々に止めるようにしました。

なお、後日主治医の先生を変更させていただき、現在はワクチン後の症状に理解のある医師に診ていただいています。

手足に痛み止めとして湿布を貼り、湿布が日光に当てると皮膚炎を起こす可能性があるということで日光を避けるため包帯を巻き、見える手足は包帯だけでした。

5月からは、さらに、私たちが”激痛MAX”と呼んでいる、ものすごい痛みに苦しめられました。「ママー!」「(痛みが)来ないでー!」「やめてー!」と、これ以上出せないくらいの声で泣き叫ぶ毎日でした。母たちは、近所に事情を話して、虐待だとか誤解をされないように説明しました。その痛みは大きな力でねじって引きちぎられるような痛みで朝目覚めたくない、生きていたくない、死んだ方がいいと思うくらいの辛さでした。痛み止めは毎日必ず飲んでいましたが、全く効きませんでした。

5月16日、TVで松藤さんのことを取り上げていたのを、お友達のお母さんが見ていて、「テレビ見てる?沙奈ちゃんと似ていない?」と知らせてくれました。歩行障害

は、私が歩けないので違うけれど、それ以外にはそっくりで、このとき初めて、私の症状も子宮頸がんワクチンのせいではないか、と考え始めました。

しかし、翌日受診した東京女子医科大学総合診療科では「分からない。」と言われ、母が「子宮頸がんワクチンのせいじゃないでしょうか」と聞くと、医師は「子宮頸がんワクチン（のせい）と思わない方がいい」「(そのように他の医師に) 言わない方がいいですよ」と言いました。母が「言うとは何かあるんですか」と聞くと、医師は「いや・・・言わない方がいいな」とだけ答えました。その後にもう一度検査結果を聞きに行きましたが、血液検査も頭部MRIも「異常はない。」と言われました。

学校に行っている、家にも、痛いのは変わらないので、授業を受けていた方が気が違う方に向くのでまだましかと、無理矢理登校していました。毎朝激痛をこらえ、泣きながらスクールバスに乗りました。その様子を見た方の中から学校に慣れてくれば治まるんじゃないかと言われました。午後になれば、全体的に痛みが減ります。両足を椅子の上に上げていないといられないのは一日中で、姿勢が反るようになるため、背もたれが動かせない車椅子では、腰が痛くなるのです。

#### (4) 他の症状（あざ、生理不順、不随意運動、耳鳴り、掻痒感、記憶障害）

この頃、手足に黒いあざができていたのを見つけました。車椅子で生活していて、ぶつけたわけでもないのに肘の内側や手足に、大きさまざまなあざが自然にできては消え、できては消えとしていました。それは今はかなり頻繁で、それも数が多くなっています。生理は、2月から5月20日頃まで、止まっていた。

5月21日頃から、頭や手がびくびくと勝手に動く、不随意運動が始まりました。てんかん発作では、右手が拳がってしまうのですが、それは無く、不随意運動のときは両手、特に左側が良くびくびく動き、全く動きが違ってきます。

このワクチンを打った新座病院の主治医に会いに行き、初めて今までの経緯や今の症状、検査結果に異常はないこととお話しし、症状がワクチンのせいではないかと話しました。

医師は「ごめんなさいね。私たちは何もすることができないのよ。」と言いました。

5月29日頃、朝から耳がおかしく耳鳴りがしていました。近くにいる家族の話し声が、遠くで話しているように聞こえ、まるでイヤホンをつけているようにモワッとした感じがしました。

痛みのあとは全身の掻痒感に苦しみました。痛みと同じくらい辛いものでした。

ニキビもたくさん出るようになりました。

また、記憶障害も起こりました。9月になり二学期が始まり、勉強も本格化していく頃、「なんだか、勉強が覚えられない、すぐ忘れてしまう」という状態が起きてきました。

## 9 信州大学でワクチンが原因と指摘される

平成25年9月、厚生労働省の副反応研究チームの1つで代表をされていた信州大学の池田先生のところを受診して、「この症状はサーバリックスが原因であろう。」と言われました。両足のMRIを撮って、「筋膜炎の所見あり」と言われて、薬の処方を受けました。

けれど、この薬を飲んで4日後あたりから、幻覚症状が起きてきました。それは日が経

つほどにどんどん酷くなっていき、通学路で車とゴミの山を見間違える、部屋の中で現実にはないものを見るなど、医師に報告して判断を仰ぎ、結局その薬は13日後には中止しました。

#### 10 一時痛み軽減するも再度悪化

平成25年9月頃から、母の知人の食事療法の先生からの指示で無農薬の野菜、自然食、菌類を活用する、まこも風呂、香草、DHAなど、食事療法を開始し、少し体調のよい日が増え、記憶の状態も戻ってきました。さらに11月にカイロプラクティックを受け始めてからは、痛みがよくなり始め、平成26年1月頃には、痛み止めの座薬を入れなくても我慢できるようになってきました。

しかし、平成26年5月から、痛みが復活し始めました。足首、足の裏が痛いことが多くなり、7月頃は、特に足首、足の裏、手の裏の痛みが酷くなり、それも発症が朝と晩に集中するようになりました。湿布や塗る薬を使用し、新たに点滴療法も始めました。不随意運動もまた出るようになってきました。

また、8月頃から便秘が酷くなって、自力では排便できなくなり、前述の手足の痛みの他、便秘による腹痛にも苦しみました。8月頃から、目の痛み（目の奥のかゆみから始まって、だんだん目の玉が痛くなり、目をつぶると余計に痛い。）も始まりました。

同年9月頃から幻覚（色が変わって見えたり壁に虫が這っているように見えたりする。）があり、ときどき不随意運動、頭痛も起きました。

10月には、足首、ふくらはぎ、膝の上、肘の下、足の付け根など、痛みがますます酷くなり、修学旅行から帰宅した後、発作が起き、その後痛みが倍増し、一日何回も痛み止めのボルタレンを飲むようになりました。高校へは、それまで何とか頑張って通学していましたが、10月後半から早退や欠席を繰り返してしまいました。

11月、便秘の薬を大黄甘草湯とガスモチン錠に変えて、やっと効きめが出て、薬と時々浣腸でコントロールできるようになってきました。

#### 11 新たな症状

平成26年末、インフルエンザA型にかかったときは薬を飲まずに5日ほどで治りましたが、高熱が治まると痛みもなぜか一時良くなりました。

その後は、平成27年1月後半からまた痛みが復活しました。新たな症状として異常にだるくなり、寝返りも打てず、目玉も動かせない、片手すらも挙げられない状態になりました。身体が硬直し、発語できませんでした。

ほかに、学校にいるとき、突如悲しみの感情に襲われる発作がときどき起こるようになり、その場にいられなくなって教室を出て、別室に移ったりしました。

今も、痛み、あざ、ニキビ、生理不順は続いています。

#### 12 ワクチンに対して思うこと

ワクチンについては「こんなものなればよかった」と思います。「ピンクのお手紙が来なければ、打たなかった。国が助成するくらいだから、いいワクチンと思った。」と母は言っています。子宮頸がんを完全に予防するのではないこと、ワクチンを打ってもがん検診は受けなければいけないことなど、全く知りませんでした。国は承認する際には、きちんとワクチンの危険性を調べて欲しかった、と思います。